



発行日：令和2年1月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

### ◆第1回市民部会まとめの会を開催しました！

市民部会まとめの会では、今年度の市民部会の取り組みと次年度に向けた目標設定について意見交換を行いました。特に、今年度は市民部会から勉強会の開催やバスツアー開催計画を提案するなど、新たな取り組みを行ってきました。次年度だけではなく、今後の市民部会の方針についても話し合いました。



日時：令和元年12月18日（水）14:00～16:30

会議場所：豊田市崇化館交流館3階 第1研修室

参加者：13名（事務局含む）

### ◆主な会議内容

#### 1. 勉強会及び流域連携イベントのふりかえりと次年度の取り組みの確認について



今年度は、市民部会の提案として勉強会を一回開催しました。流域連携イベントは、矢作川流域圏懇談会の主催で事例集交流会を開催し、他団体主催の2つのイベントに参加しました。

##### 【勉強会】

・第15回勉強会 (11月22日 長野県大鹿村 中央構造線博物館、上伊那郡中川村 小渋ダム)

##### 【流域連携イベント】

- ・事例集交流会2019 (6月22日 岡崎市高木製作所研修所)
- ・2019矢作川感謝祭 (9月8日 豊田市千石公園(豊田大橋下))
- ・第6回三河湾大感謝祭 (10月20日 碧南市大浜漁港)

勉強会では、山・川・海の各地域部会メンバーが集まり、これまで川部会で中心として話し合われてきた土砂バイパスについて、懇談会全体に情報を共有しました。また、感謝祭では矢作川に関するクイズを出題するなど、一般市民が矢作川の情報に触れる機会を提供しました。

次年度は、市民部会メンバーが知りたい情報や流域市民に知ってもらいたい情報を学ぶ場として勉強会の開催を提案します。今後さらに、外部の一般市民が集まるイベントで矢作川流域圏懇談会の情報発信を行いたいと考えています。

#### 2. 今年度の活動状況のふりかえりと次年度に向けた目標設定について



##### 【今年度の取り組み】

昨年度のWGであげられた以下3つの課題に対する今年度の取り組みについて話し合いました。

##### ◆市民部会（市民会議としての）流域連携テーマの議論

→第4回市民部会で「流域連携とは何をすれば連携となるのか」という流域連携の意義を確認し、勉強会の方針を検討。

##### ◆山・川・海合同ツアー（勉強会）の開催（頻繁な開催）

→市民部会から第15回勉強会の提案し、開催。次年度以降に矢作川を巡るバスツアーの開催を提案。

##### ◆地域部会（山・川・海）の話題・課題を把握できるシステム

→各地域部会の課題を懇談会全体の共通認識とするために、バスツアーを提案。各地域部会で話し合ってきた課題・内容の収集を開始。

##### 【次年度の目標】

次年度は、矢作川を巡るバスツアーの開催を目指して、各地域部会から集めた意見を元に、バスツアーのルート及び内容を計画します。また、勉強会の開催によって流域住民に情報を発信していきたいと考えています。

##### 【今後の課題】

この10年間で新たに見えてきた課題や問題の明確化を目指していきます。また、これまでつながりの少なかった農業や工業などの団体との関係を築きたいと考えています。



## ◆話し合いでの主な意見

(・意見 ▶回答)

### ●勉強会及び流域連携イベントのふりかえりと次年度の取り組みの確認について

- ・地域部会でも流域連携に取り組んできたが、個人的に連携して活動している人もいる。もっと紹介すべきだ。(高橋)
- ・3つの地域部会の活動場所でそれぞれ合同部会を開催できたらよい。(高橋)
  - ▶他の部会に情報を発信し、懇談会全体で共通基盤を構築できるような会を最低でも年1回開催したい。(光岡)
- ・ネオニコチノイド(農薬)が閉鎖水系の微生物へ悪影響を与えているという論文がある。農家の人は害になっていることを知らない。生態系へ影響がない農薬を使ってほしい。勉強会を開き、情報を発信したい。(山本薫)
  - ▶化学合成繊維の服を着ているが、洗濯するたびにマイクロプラスチックが流れているなど、衝撃的な情報がある。また、農薬やマイクロプラスチックの話題は子育てをしている若い年代の人を呼び込める。(沖)
  - ▶農薬やマイクロプラスチック、アサリの減少、鳥獣被害など、10年前にはなかった問題が見えてきた。これらを議題とした勉強会を開催し、可能であれば一般にも公開したい。(井上)
  - ▶10年間で新しく出てきた課題の明確化は今後の市民部会での課題である。(山本薫)
- ・バスツアーのような、場所を移動して行う勉強会をもう少し積極的に開催してもよい。(光岡)
- ・矢作川に対する意識を持っている人だけではなく、懇談会の活動に来ていない外部の人にどうやって活動を広めていくかが今後の課題である。矢作川感謝祭などをうまく活用していきたい。(近藤)

### ●今年度の活動状況のふりかえりと次年度に向けた目標設定について

- ・3つの地域部会で専門的なことが話し合われており、他部会の話し合いの内容が理解しにくい状況である。流域圏全体で共通となる話題については異なる部会メンバーが同じ視点で話し合えるよう、市民部会で取り組みたい。(光岡)
- ・流域圏懇談会は河川区域外も含めて考えていくべきだ。明治用水や枝下用水の関係者に来てもらいたい。(山本孝)
  - ▶流域というと農業や工業、生活水の全てが関係するが、工業関係者は地域部会に参加していない。いろいろな関係団体とのつながりの補強が今後の市民部会の課題になる。(光岡)
  - ▶農業団体の方との接点は少ない。昔は山と農業は兼業だったが、近年は専門化されている。(沖)
  - ▶農業・工業・生活水はほぼ100%矢作川の水が使われている。この範囲を含めて矢作川流域である。また、明治用水関係の農協の方はいろいろなことに取り組んでおり、働きかければ協力を得られるはずだ。(高橋)
- ・工場で大量の水を取水しているが、あまり川に戻って来ない気がする。(光岡)
  - ▶川へ戻すこともしているが、濁水期のために多めに取って、多めに海に流している可能性がある。(高橋)
  - ▶源兵衛川では市民の働きかけで工場が用水を川に流した。市民と工場が協力して取り組む道はある。(山本孝)
  - ▶市民部会が工業関係者に用水関係の話を聞きに行くのもよい。(高橋)
- ・今年度の成果・課題だけではなく、過去の課題を踏まえたうえで少しずつ進んできたことを整理すべきだ。過去の成果もその時点でできたことではあるが、終わった話ではないので積み上げてまとめるべきだ。(近藤)
- ・今後の課題として、「矢作川の望ましい姿のイメージの可視化・具体的行動」「市民部会としての流域連携テーマの議論」「地域部会の話題・課題を把握できるシステム」という3つの項目はよく整理できている。(山本薫)
- ・矢作川流域の名物や流域で生きることの楽しさなどを市民部会で発信したい。個人でも発信していきたい。(山本孝)
  - ▶メーリングリストでも各部会の情報を配信していきたい。写真などもあるとよい。(山本薫)
  - ▶メーリングリストでの情報は懇談会の中での統一見解である。それとは別に個人の責任で各個人が情報を発信することも重要なことである。(山本孝)

### ●振り返り

**よかったと思うこと**：市民部会の役割が見えてきて嬉しい。／具体的になってきたので、活気が感じられた。

**今後取り組んでいきたい活動など**：一般市民への情報発信と勉強会やバスツアーへの参加を誘う。／勉強会のテーマ決めへの参加。／市民部会個人として勝手に発信する。

## 山・川・海の恵みにつながる矢作川をつくる

～新たに！「流域はひとつ」生命共同体～

各地域部会の課題・問題を矢作川流域圏懇談会全体の共通認識とすること目指して、市民部会は活動していきます。

### 今後の予定

■第9回全体会議 日時：令和2年2月25日(火) 14:00~16:30 愛知県西三河総合庁舎

■バスツアー2020(仮称)事前打合せ

日時：令和2年2月25日(火) 17:00~18:00 東岡崎駅前レンタルセミナールーム&スタジオ



### ◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 神本、指導員 宇野

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

\*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijinet.or.jp)までお送りください。

